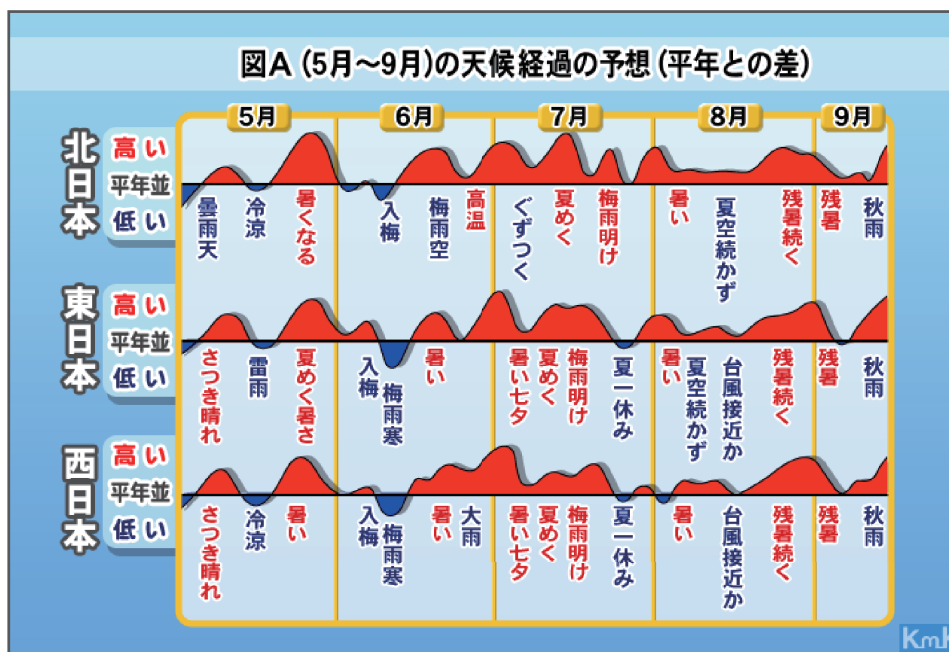


初夏から夏（5～8月）の流通気象情報

天候のアウトライン

- 5月 さつき晴れ、夏めく暑さ
- 6月 梅雨入り平年並、暑い
- 7月 梅雨明け早い、猛暑
- 8月 猛暑、のち夏空続かず
- 9月 残暑

図A (5月～9月)の天候経過の予想(平年との差)



ラニーニャ発生

赤道太平洋のエルニーニョ監視海域の海面水温は、3月は2月よりさらに下がり -0.8°C になりました。フィリピン沖は高く、ラニーニャの分布が続いているので、昨年秋以降ラニーニャ現象が発生したと考えられます。

ラニーニャ年の北日本は**暑い夏**ですが、東・西日本は**熱帯低気圧**の影響を受け、**不順な夏**になると予想されます。

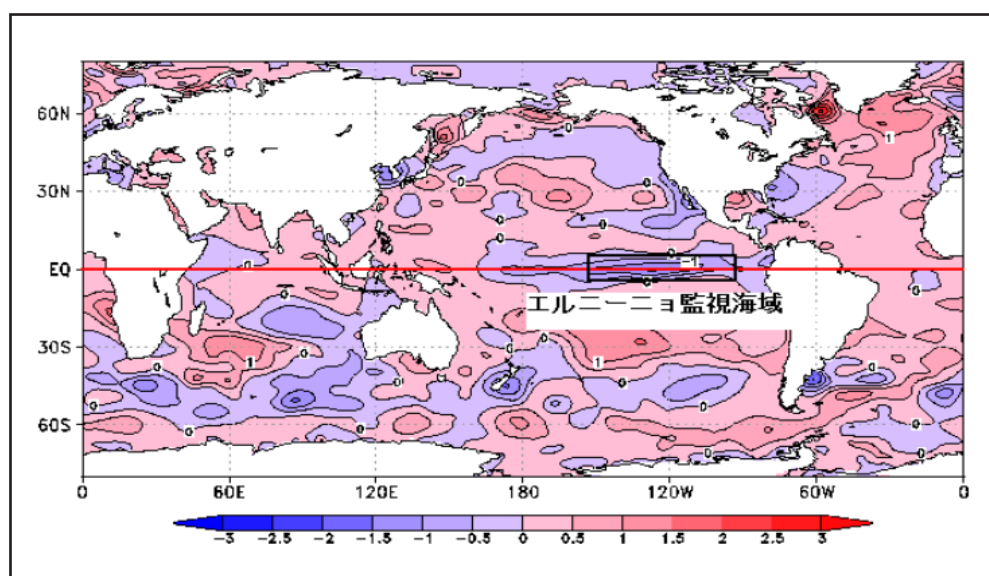


図1 海面水温平年偏差 (〇〇〇〇年〇月 気象庁)

初夏（5月）の天候

暑い初夏 さつき晴れ 一時走り梅雨

初夏の好天

GWは、さわやかな**さつき晴れ**。

《人出多い、ビール、飲料、初夏衣料好調》

走り梅雨

中旬前半は、一時オホーツク海高気圧が現れ**走り梅雨**となりますが、**昨年**のように長引くことはないでしょう。

新緑寒波

上空に**寒気**が入り、**雷雨**や**降ヒョウ**がある見込みです。

夏めいた陽気

下旬は気温が上昇し、**真夏日**があるでしょう。

5月の夏日

夏日は平年より多いでしょう。

(日最高気温 25℃以上の日)

	今年の予想	平年	昨年
仙台	5日	3日	1日
東京	11日	6日	6日
松本	11日	10日	11日
名古屋	17日	12日	10日
大阪	16日	14日	13日
福岡	11日	11日	9日
鹿児島	22日	16日	23日

梅雨期（6月）の天候（図A、B参照）

梅雨入り平年並、梅雨明け早い

梅雨入り

平年並に梅雨入りするでしょう。
九州は平年より早い見込みです。

	今年の予想	平 年	昨 年
仙 台	6月9日前後	6月10日	6月15日
東 京	6月9日前後	6月8日	6月10日
名古屋	6月9日前後	6月8日	6月11日
大 阪	6月9日前後	6月6日	6月11日
福 岡	5月25日前後	6月5日	6月10日

梅雨寒く短い

梅雨入り後は肌寒い日が続くでしょう。

下旬真夏日

下旬は真夏日が続き、暑くなりますが、昨年のような異常高温にはならない見込みです。

《夏商戦出足好調、エアコン、ビール、夏衣料、
水着、アイスクリーム 人気》

6月の真夏日

例年より真夏日が多いでしょう。
記録的高温だった昨年よりは少ない見込みです。

(日最高気温 30℃以上の日)

	今年の予想	平 年	昨 年
札 幌	0日	0日	2日
仙 台	0日	0日	2日
東 京	3日	2日	5日
松 本	5日	3日	13日
名古屋	5日	4日	9日
大 阪	7日	5日	17日
福 岡	6日	3日	11日
鹿児島	5日	5日	8日

梅雨期（7月）の天候（図A、B参照）

空梅雨、早い梅雨明け、暑い

《エアコン、ビール、飲料、そうめん、夏衣料 好調》

空梅雨

梅雨前線は不活発で、**空梅雨**でしょう。

雨明け早め

7月中旬には**太平洋高気圧が強まり**、**早めに梅雨が明ける**見込みです。

梅雨明け

平年より早い

	今年の予想	平年	昨年
仙台	7月19日前後	7月23日	8月4日
東京	7月16日前後	7月20日	7月18日
名古屋	7月16日前後	7月20日	7月18日
大阪	7月18日前後	7月19日	7月18日
福岡	7月17日前後	7月18日	7月17日

梅雨期の雨量予想

名古屋以西では今年も**少ない**見込みです。
東京は**雷雨**が目立ち、**雨量が多くなる**でしょう。

(6～7月の平年比)

	今年の予想	平年
仙台	107%	107%
東京	128%	66%
名古屋	46%	76%
大阪	80%	61%
福岡	55%	47%

まとめ

- ・ 6月は西日本中心に**空梅雨**傾向でしょう。
- ・ **陽性型**の梅雨で、**雷雨**や**熱帯低気圧**の影響で局地的に**大雨**が降るでしょう。
- ・ **梅雨明け**は、平年より**早い**でしょう。

盛夏期（7月下旬～8月）の天候（図A、B参照）

猛暑、のち夏空続かず

《夏物も変調》

猛暑

梅雨明け後は、**猛暑**が続くでしょう。

熱低多発

熱帯低気圧がたびたび接近し、**局地的大雨**の恐れがあります。

7～8月の真夏日

昨年より多く、むし暑い夏が多いでしょう。

（日最高気温 30℃以上の日）

	今年の予想	平年	昨年
札幌	10日	7日	6日
仙台	27日	15日	15日
東京	53日	36日	39日
松本	52日	33日	34日
名古屋	57日	44日	46日
大阪	60日	50日	50日
福岡	53日	44日	48日
鹿児島	58日	51日	54日

残暑 9月

9月に入っても**太平洋高気圧**が強く、**残暑**となる見込みです。

まとめ

- ・ 梅雨明け後は**暑く**なりますが、**夏空は続かず**、**俄雨や雷雨が多い**でしょう。
- ・ **9月**は、**残暑**が厳しいでしょう。
- ・ **台風**の上陸数は少ないですが、**熱帯低気圧の影響が多い**見込みです。

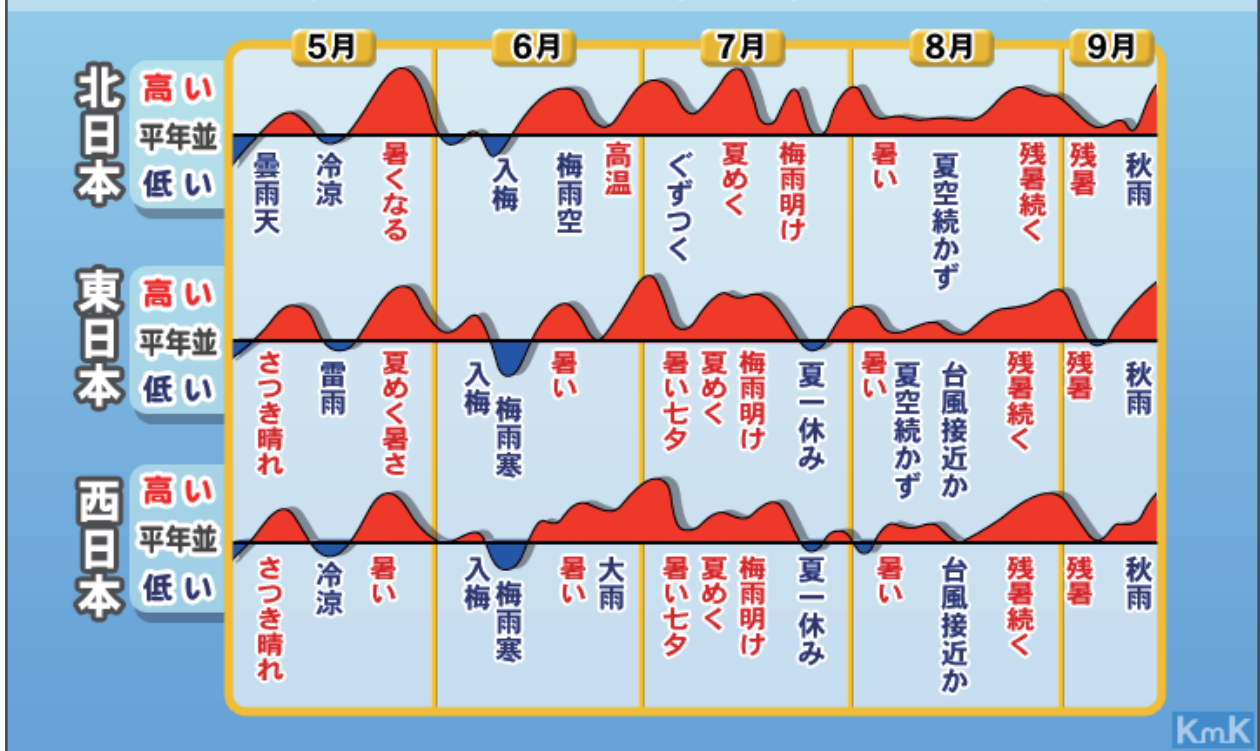
〔本情報のご利用にあたって〕

最近の気象予測では大気はカオスの特性があることが常識となりつつあります。

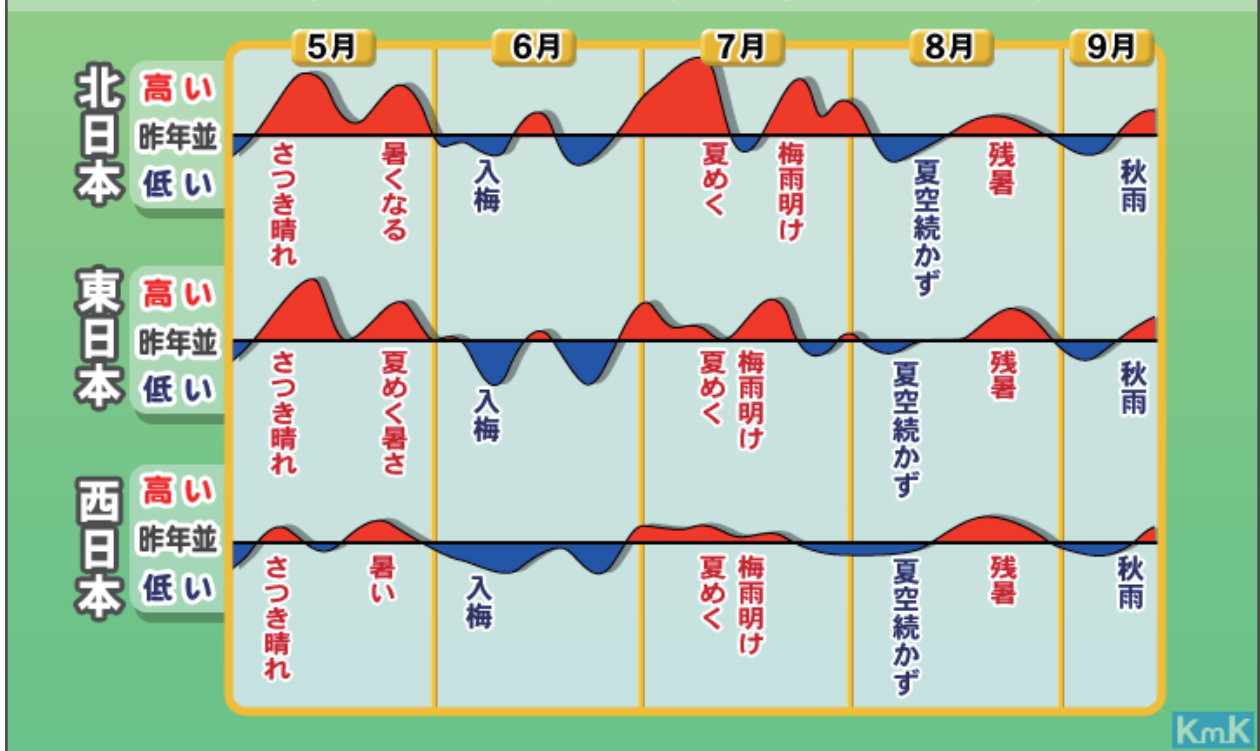
このため、予測が急変することがあります。この兆しが見えました時には、タイムリーに修正情報を無料で提供いたしますので、ご利用下さい。

Copyright : 気候問題研究所 080-2069-8055

図A (5月～9月)の天候経過の予想 (平年との差)



図B (5月～9月)の天候経過の予想 (昨年との差)



気候問題研究所レポート（2）

1. エルニーニョ現象発生の予兆

世界的な異常気象発生の震源地と言われる赤道東太平洋の海水温は、春までの**低水温**（ラニーニャ現象）から7月には**高水温**に変わりました。（図）今冬に向けて**エルニーニョ現象発生の恐れも予想され、異常気象が発生する可能性があります。**

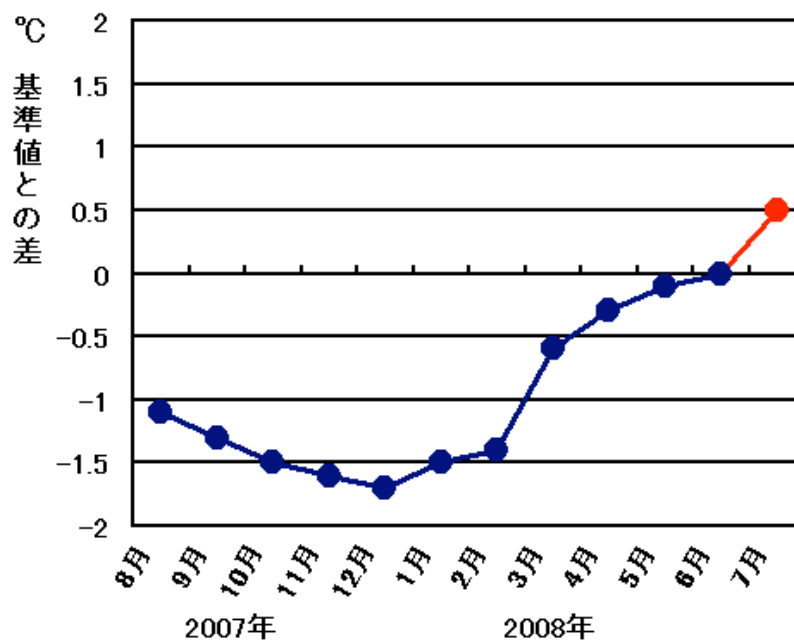


図1 エルニーニョ監視海域の月平均海面水温
基準値との差（気象庁）

2. 今冬の天候への影響解説について

エルニーニョ現象の影響をふくめ、**今冬の天候予想を解説する講演会**を10月ごろに予定しております。詳細が決まり次第ご案内を差し上げます。多くの方々のご出席をお待ちいたしております。

気候問題研究所

〒302-0115

茨城県守谷市守谷甲 2263-3

TEL 080-2069-8055

E-mail : info@kikomondai.net

気候問題研究所レポート（3）

1. 地球温暖化と台風発生数

例年の台風発生数は8月末までに約14個ですが、今年は今のところ12個しか発生していません。最近の傾向を見ると（図）1960年代以降地球温暖化とともに減少傾向をたどっています。

これは IPCC第4次レポート が指摘したように、温暖化すると熱帯低気圧発生数が減少するということと合致しています。

モデルシミュレーションによると発生数が減少しても強力台風が発生しやすくなりますので、大きな被害が発生する心配が大きくなります。

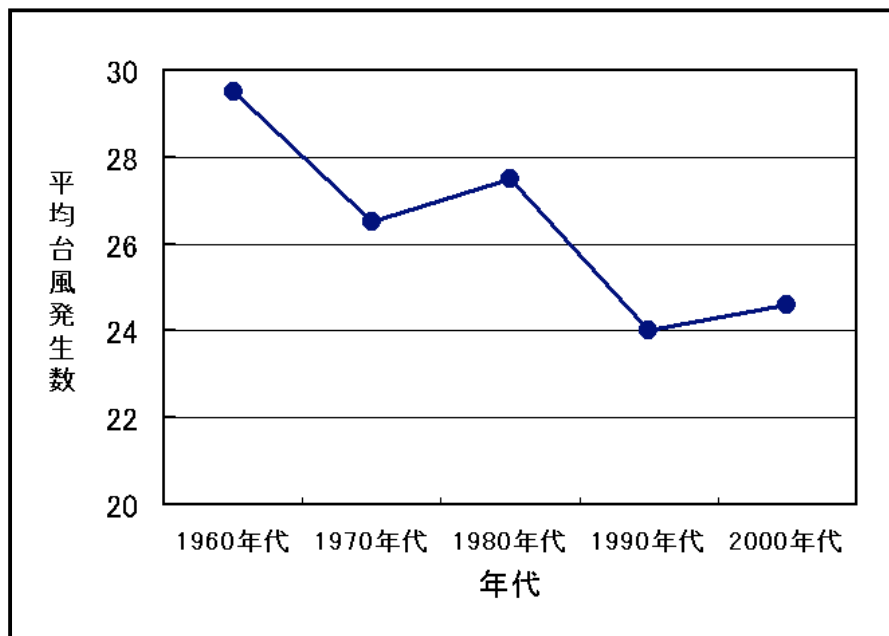


図1 年代別発生数

2. 今冬の天候解説の講演会の開催のお知らせ

すでにお知らせいたしましたように、昨冬と違ってラニーニャ現象が解消しました。エルニーニョ現象発生への恐れを指摘する外国の研究もあります。いろいろな資料をもとに今冬の天候解説講演会を10月頃開催すべく準備中です。詳細は9月中にご案内を差し上げます。多くの方々のご出席をお待ちしております。

気候問題研究所

〒302-0115 茨城県守谷市守谷甲 2263-3

TEL 080-2069-8055

E-mail : info@kikomondai.net